

7-2					
主題	特別養護老人ホームが地域福祉の活動拠点となるための実践				
副題	コロナ禍で自粛された活動からチームやすらぎ（チームオレンジ）が発足されるまで				
キーワード 1	地域福祉	キーワード 2	ボランティア	研究(実践)期間	19ヶ月

法人名	社福) 吹上苑	事業所名	特別養護老人ホームやすらぎの家
発表者(職種)	相馬健一(経営戦略室 室長)		
共同研究(実践)者	久保貴寛(施設長)、梅村まゆみ(社会貢献担当)		

電 話	0428-23-7020	FAX	0428-23-5177
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	青梅市吹上にある自然環境が豊かで、ご利用者だけではなく地域住民がやすらぎを感じられる開かれた施設を目指している。施設でセラピードッグを飼っているため、常にご利用者に癒しを与えている。理学療法士含め3人の機能訓練指導員がいるため、個別や集団のリハビリや余暇活動が充実している。
-------	---

<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>法人理念の「地域福祉の活動の拠点となる」ということを元に自治会への呼びかけをしながら地域住民対象の「地域交流イベント」を実施してきた。しかし、コロナ禍において実施が困難になり、やむを得ず休止していた。</p> <p>地域住民にとって活動の機会が少なくなり、※1 フレイルが進むことがわかった。</p> <p>※1：高齢者の身体機能低下により、健康や生活の質が低下する状態</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>活動の場として施設が開かれることにより、高齢化していく地域住民の活動の機会、運動の機会、交流の機会が増える。そのことにより住民同士の個々の交流が生まれ相互の支え合い活動にも発展するという仮説を立てた。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>(1)「地域交流イベントの再開」※2 オレンジカフェの機能も持つイベントとする。</p> <p>実施回数 令和5年度5回 令和6年度4回(10月現在)</p> <p>内容：認知症サポーター養成講座、講演会、レクリエーション等 + カフェタイム</p> <p>参加人数 延べ123名</p> <p>(2) 地域サロン「やすらぎの家みんなの居場所」※2</p> <p>定期開催(毎月第二木曜日午前中) 実施回数6回</p> <p>内容：ボランティアによる健康体操、音楽レクリエーション + カフェタイム 参加延べ人数87名</p> <p>※2：地域の高齢者が市内の地域サロンや通いの場等に送迎する「青梅市高齢者移動支援事業」を利用する。</p> <p>(3) 有償ボランティア活動「やすらぎの家たすけ愛♡隊」の活動</p>

日々生活を送るうえで小さな困りごとを抱えている高齢者や障がいを持つ方を地域の方同士で
支え合える有償ボランティア活動の地域限定版を構築し、事務局として活動する。

協力会員（支える側）登録者34名 利用会員（支えられる側）登録者9名 件数 38件

（4）チームやすらぎ（チームオレンジ※3）発足

特別養護老人ホームで行っているボランティア活動（朗読クラブ、傾聴活動、将棋の相手、園
芸、ボッチャクラブ）と学校・保育園関係との交流活動、法人の社会貢献活動（やすらぎの家
たすけ愛♡隊、地域サロン、地域交流イベント、和太鼓団体）の関係者が一堂に会し、ご利用
者を支える一つのチームとしてチームオレンジの発足とした。令和6年10月6日（日）チ
ームやすらぎ結束会 47名参加

※3：地域において把握した認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポ
ーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み

《4. 取り組みの結果》

地域住民対象の取り組みとして地域交流イベントを再開、オレンジカフェ、地域サロンを実施
し参加者同士の交流が増えた。特に地域サロンで行っている健康体操は地域住民の運動の機会
となり、フレイル予防の一つとなった。また、活動に参加するための手段として「青梅市高齢
者移動支援事業」を利用することで支援が必要な方の社会参加の機会につなげることができ
た。

これにより「やすらぎの家たすけ愛♡隊」の協力会員・利用会員も増加し、地域の支え合いの
機会も増加した。

《5. 考察、まとめ》

法人理念の「地域福祉の活動拠点となる」ということを元に「地域交流イベント」、「オレンジカ
フェ」、「地域サロン」の開催。「やすらぎの家たすけ愛♡隊」の事業運営を通して地域住民の社会
参加の機会を斡旋できた。施設ボランティア、他の社会貢献活動と共にチームとしたことで、全
体的な交流だけではなく、個々の交流にもつながり支えあいの意識を持つきっかけにもなった。

「チームやすらぎ」の具体的な活動の一つである施設内のボランティア活動が充実することによ
りご利用者の生活の質の向上にもつながる。施設のボランティアコーディネーターがリンクワー
カーとなることで活動につなげることができる。

また、チームメンバーから施設入所の相談や申し込みを受けるケースも出てきており広報として
の役割を果たしていると考えている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外
では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得
たこととした。

《7. 参考文献》

社会的処方 学芸出版社西智弘 編集山崎亮コミュニティーデザイナー 2020発行

《8. 提案と発信》

施設が地域福祉の活動拠点となり、地域住民がフレイル予防のためにレクリエーションに参加
することは、結果としてご利用者の生活の質の向上にもつながる。これからも特別養護老人ホ
ームが地域づくりに参画し、地域住民にとっても地域福祉の活動の拠点として継続運営してい
くことを目指す。